

2012年合格目標

TAC 行政書士講座・無料公開セミナー

無料公開セミナー

効率重視で短期合格！

「短期集中カリキュラム の組み方」

《セミナーの内容》

1. 行政書士試験の概要
2. 昨年度の試験傾向から試験対策を練る
3. 短期集中カリキュラムの組み方
4. 効率的学習法

1. 行政書士試験の概要

(1) 試験要項

(2) 試験科目・出題数

① 行政書士に必要な法令等（法令科目）

60 問中 46 問 — 五肢択一式（40 問）、多肢選択式（3 問）及び記述式（3 問）

② 行政書士の業務に関連する一般知識等

60 問中 14 問 — 五肢択一式（14 問）

(3) 出題形式

① 五肢択一式（60 問中 54 問 — 1 問 4 点）

ex. 次のうち正しいものはどれか。

- 1 ～
- 2 ～
- 3 ～
- 4 ～
- 5 ～

② 多肢選択式（60 問中 3 問 — 1 問 8 点・部分点あり）

ex. ア～エに当てはまる語句を、枠内の選択肢（1～20）から選びなさい。

～～ア～～～～～～イ～～ウ～～エ～～～～～～。

1	2	～	20
---	---	---	----

③ 記述式（60 問中 3 問 — 1 問 20 点・部分点あり）

ex. ～について、40 字程度で記述しなさい。

(4) 合格基準 ⇒ 300 満点中 180 点（6割）で合格！！

2. 昨年の試験傾向から試験対策を練る

本試験の傾向を踏まえて、を考えてみましょう。

① 難易度：平年通り

全体的に、**難易度は平年通り**、難しかった**一昨年度試験より易化**しました。

今年の試験では、「問われる条文・判例は**基本的＋問われ方は応用形**」というパターンの問題が多く出題されました。

あなたが行政書士試験に合格するためにしなければならないのは、**基本的な条文・判例の知識を固めた上で、その知識を柔軟に使えるだけの応用力を鍛えること**です。

② 基本的な条文・判例とは（過去問でどこまで得点できるか？）

では、「基本的な条文・判例」とは？ これは間違いなく過去問で出題されたか条文・判例です。

昨年問題は、**過去問（昭和 62 年以降のもの）で出題された知識で 4 割程度（120 点程度）は得点できました**。つまり、過去問を使えば 120～140 点程度の土台部分を作ることができます。これが合格に必要な実力作る一番早い方法です。ただし、それだけでは合格ラインに到達できませんから、過去問以外の「 $+\alpha$ 」は必要となります。

③ 知識をつかう練習をする

インプットした「過去問 $+\alpha$ 」の知識を使って問題を解けるようにします。そのためには、問題を解く練習を繰り返します。

④ 効率的に合格するための学習法

第1 過去問をしっかりと学習し、4割得点の土台を固める

第2 過去問を土台とする120点に「 $+\alpha$ 」部分を積み上げる

第3 積みあがった知識を使う練習、応用力を鍛える練習をする

⑤ 「 $+\alpha$ 」の見極め

では、過去問以外に必要な「 $+\alpha$ 」とは？

この「 $+\alpha$ 」を見極めることが、効率的に合格する方法です。

ここで見極めを間違えてしまうと、必要ないことに時間を費やしてしまい、学習の効率性が失われ、結局合格に時間がかかってしまうからです。

巷では、「過去問では受からないから、司法試験問題や司法書士試験まで手を伸ばせ」「公務員試験の問題を徹底的にこなせ」「司法試験の参考書をつかえ」「学者の基本書を読め」などということをよく耳にしますが、**問われているのは基本的な条文・判例**です。そのようなことをする必要はありません。

過去問をベースに行政書士試験対策用として書かれた教材を徹底的に学習すべきです。知識としては、過去問で出題されたところの周辺（e x. 頻出条文の前後の条文や、1項が頻出であれば2項、頻出判例の出題されていない判旨部分）です。これらを押さえることで「 $+\alpha$ 」を捉えることができます。

ちなみに、TAC 行政書士講座の「基本テキスト」であれば、212点（現場思考問題を含む）の得点が可能でした。つまり、3割の「 $+\alpha$ 部分」を補充できるものとなっています。

⑥ 全体としての学習指針

全体としての学習方針としては、暗記オンリーの旧傾向からは完全に脱却し、行政書士試験に必要な基本的な条文・判例の理解を深めつつ、その知識をアウトプットを中心に繰り返すことで、使える知識に育て上げていくことです。

3. 効率的カリキュラムの作成

《戦略的タイムマネジメント》

① まずは残り時間を算出してください。

- ・ 1週間で勉強に割くことができる時間は、週_____時間。
- ・ 残り_____週 × 週_____時間 = 本試験までに残された時間

② 多く出題される部分に多くの時間を割くのが効率的です。

【法令科目】（81.3% 244/300） 残り時間×約 0.82＝法令の残り時間
（_____時間）× 約 0.82 = 法令の残り時間（_____時間）

- | | | |
|---|---------------------|-------------------------------|
| { | ① 基礎法学（2.6% 8点） | 配点小・分量多・難易度易 |
| | （_____時間）× 約 0.03 = | 基礎法学の残り時間（_____時間） |
| | ② 憲法（9.3% 28点） | 配点中・ 分量少 ・ 難易度易 |
| | （_____時間）× 約 0.10 = | 憲法の残り時間（_____時間） |
| | ③ 行政法（37.3% 112点） | 配点大 ・分量多・難易度中 |
| { | （_____時間）× 約 0.38 = | 行政法の残り時間（_____時間） |
| | ④ 民法（25.3% 76点） | 配点大 ・分量多・難易度高 |
| | （_____時間）× 約 0.24 = | 民法の残り時間（_____時間） |
| { | ⑤ 商法（6.6% 20点） | 配点小・分量多・難易度高 |
| | （_____時間）× 約 0.07 = | 商法の残り時間（_____時間） |

【法令科目の得点戦略】

配点の高い行政法、民法と、学習分量が少ない憲法を得点源とします。

【一般知識等】（18.6% 56点） 残り時間×約 0.18＝一般知識の残り時間
（_____時間）× 約 0.18 = 一般知識の残り時間（_____時間）

- | | | |
|---|---------------------|-----------------------|
| { | ① 政経社会等（9.3% 28点） | 配点小・分量多・難易度高 |
| | （_____時間）× 約 0.08 = | 政治等の残り時間（_____時間） |
| | ② 情報公開等（5.3% 16点） | 配点小・ 分量少 ・難易度中 |
| { | （_____時間）× 約 0.06 = | 情報公開等の残り時間（_____時間） |
| | ③ 文章理解（4.0% 12点） | 配点小・分量多・難易度低 |
| { | （_____時間）× 約 0.04 = | 文章理解の残り時間（_____時間） |

【一般知識の得点戦略】

基準点（6問 24点）をクリアすることが目標です。

情報通信・個人情報保護で4問、文章理解で2問の得点を目指します。

※ここで算出した時間を、巻末 400 時間表に割り振ります。勉強しなかった場合もした場合も色を変えてマーカーしていきます。

4. 効率的学習法

⇒ **インプット、アウトプットを同時並行で繰り返す。**

「過去問＋α」という基本的な法律知識を徹底的にインプットし、無駄なことを排除します。

さらに、インプットしたら、その都度、アウトプット（実際の問題を解くこと）の練習をしていきます。

その際、「正解だった」「不正解だった」で終わるのではなく、問題を十分に分析・検討して、「本試験でも使える正確な知識」を定着させます。

① 曖昧な知識をどれだけ増やしても本試験では使えない。。

本試験では、各選択肢の正確な正誤判断が求められますので、曖昧な知識では正誤判断ができません。なんとなく「○」にしたり「×」にしたり。結局、各選択肢を正誤判断できる確率は50%です。この確率は知識がない場合と同じです。**問題を解いて、明確に「正しい！」「誤り！」と判断できる知識が、本試験でも使える正確な知識ということになります。**

② 出題された問題の半分の選択肢を完全に正誤判断できればよい。

では、行政書士試験で6割以上の得点をするには、行政書士試験問題のうち何割の選択肢を完全に「正しい！」「誤り！」と判断できるような知識があればよいかというと。。。

↓

5割あればOKです。

↓名づけて

「5割完璧知識行政書士試験合格法」です！！

③ 5割完璧知識行政書士試験合格法とは？

5割の正確な知識で五肢択一式54問（216点）中、何問正解できるでしょうか。例えば、「次の記述のうち正しいものを選び。」という問題で、正解が3、半分の肢（2～3肢）は正確に○×をつけることができるとしましょう。完璧に正誤判断できない肢は△とします。

（パターン1）

3つの肢の正誤判断ができ、
その中に正解肢があるパターン。

1. ×
2. ×
3. ○
4. △
5. △

→正答率100%

試験問題の半数27問はこのパターンで正解できます。

（パターン2）

2つの肢の正誤判断ができ、
その中に正解肢があるパターン。

1. △
2. ×
3. ○
4. △
5. △

→正答率100%

（パターン3）

3つの肢の正誤判断ができ、
その中に正解肢がないパターン。

1. ×
2. ×
3. △
4. △
5. ×

→正答率50%

残りの27問中、13～14問は2択（パターン3）になり、その半分の7問正解できます。残りの27問中、13～14問は3択（パターン4）になり、その3割の4問正解できます。

（パターン4）

2つの肢の正誤判断ができ、
その中に正解肢がないパターン。

1. ×
2. ×
3. △
4. △
5. △

→正答率33.3%

したがって、5割の完璧な知識で、五肢択一式54問中38問（216点中152点）、択一式の約7割正解できるわけです。

※ あとは、記述式・多肢選択式84点中28点（約3割）の得点できれば180点クリアです！

※ もちろん、個数問題や組合せ問題もあり、必ずこの確率になるとは限りませんが。

④ 正誤判断を正確にできる知識を獲得するための問題演習法

では、このような知識を獲得するために、どのような方法でアウトプットをおこなっていけばよいのでしょうか。

問題を解いてみて、正誤判断の根拠となる条文や判例を説明できる肢には○や×をつけますが、正誤判断できなかった肢、正誤判断に時間がかかった肢には△をつけていきます。

【問題1】誤っているものを選び。

- | | |
|----------------------------|-----|
| 1. → 見たことはあるけど、正誤判断がつかない | → △ |
| 2. → なんとなく正しいと思うけど根拠がわからない | → △ |
| 3. → 1分間考えて誤りと判断 | → △ |
| 4. → 正しいと判断。根拠判例も言える | → ○ |
| 5. → 誤りと判断。根拠条文も言える | → × |

正解は5で、問題には正解ですが、これで終わってはいけません。この問題で正確な知識は二つだけ、40%しかないからです。

肢4、肢5は分かっているのだから、軽く確認すればオーケー。

肢1、肢2、は答え合わせのときに、根拠条文、判例を見直し。条文のどこが誤りに変更されているのか、正しいあるいは誤りと判断するポイントはどこかをチェック。

肢3は、なぜ正誤判断に時間がかかってしまったのかを自己分析。知識が曖昧なところを条文・判例でチェックします。

問題には正解したとしても、△の選択肢は知識が曖昧ですから、その肢に関わる条文知識、判例知識は一つ一つ丁寧に確認して、記憶させます。それを何度も何度も繰り返し行うことで、△の数は減っていき、すべて○×を正確につけることができる知識、本試験でも使える知識が増えていくわけです。



行政書士試験合格のために絶対に必要なのは

無駄のない「過去問＋α」となる知識を徹底的にインプッ

**トし、出題される5割の知識を完全に正誤判断できるように
することです。**

[illegible]

[illegible]

《短期集中カリキュラムの組み方》 TAC生

効率的に学習を進めるには、上記の時間で行政書士試験で出題されるところを徹底的に学習することが重要です。行政書士試験で出題されるところはごく基本的な条文と判例ですから、その基本的な条文と判例を徹底的に学習します。基本的な条文と判例は、TACの教材です。TACの教材は過去問を分析することで行政書士試験で出題される可能性が高い部分を絞り込み編集してあります。これらの教材を使用して得た知識をベースに、時間のある限り問題演習を繰り返していくことになります。

（1週間のカリキュラムモデル）

曜日 時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
朝	復習問題 30分	復習問題 30分	復習問題 30分	復習問題 30分	復習問題 30分	復習問題 30分	復習問題 30分
午前	仕事	仕事	仕事	仕事	仕事	金の範囲 過去問 ミニテスト 180分	土の範囲 過去問 ミニテスト 180分
昼	過去問 30分	過去問 30分	過去問 30分	過去問 30分	過去問 30分		
午後	仕事	仕事	仕事	仕事	仕事		一週間の 全体を 復習
夕方	Web 講義 ミニテスト 150分	TAC 生講義 ミニテスト 150分	月の範囲 過去問 ミニテスト 180分	火の範囲 過去問 ミニテスト 180分	TAC 生講義 ミニテスト 150分	Web 講義 ミニテスト 150分	ミニテスト 過去問 300分
夜	テキスト 復習 30分	テキスト 復習 30分			テキスト 復習 30分	テキスト 復習 30分	
深夜	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
時間計	4.0h	4.0h	4.0h	4.0h	4.0h	6.5h	7.5h

1週間—34.0h